

果樹カメムシ類情報第3号

令和6年8月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

**早いところで8月上中旬から果樹園に飛来する可能性があります！
発生量はやや多いと予測します。**

1 果樹カメムシの発生状況

- (1) 新城市の予察灯における誘殺数は、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシでやや多く、チャバネアオカメムシは平年並で推移しています。
- (2) チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並からやや多い状況です（図1）（調査地点：小牧市、豊川市、豊田市、幸田町、新城市）

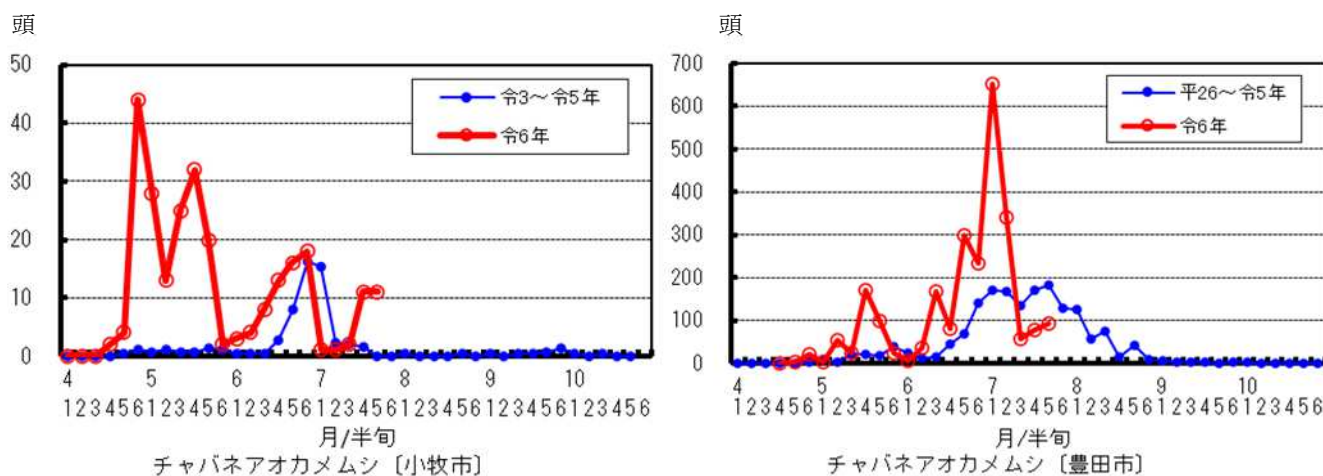


図1 フェロモントラップにおける誘殺状況

- (3) 7月下旬にヒノキ林で調査を行ったところ、ヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシの生息虫数は、成虫が0.23頭（平年0.32頭）、幼虫は0.50頭（平年0.32頭）で（図2）、過去10年と比較して成虫は平年並、幼虫はやや多い状況でした。

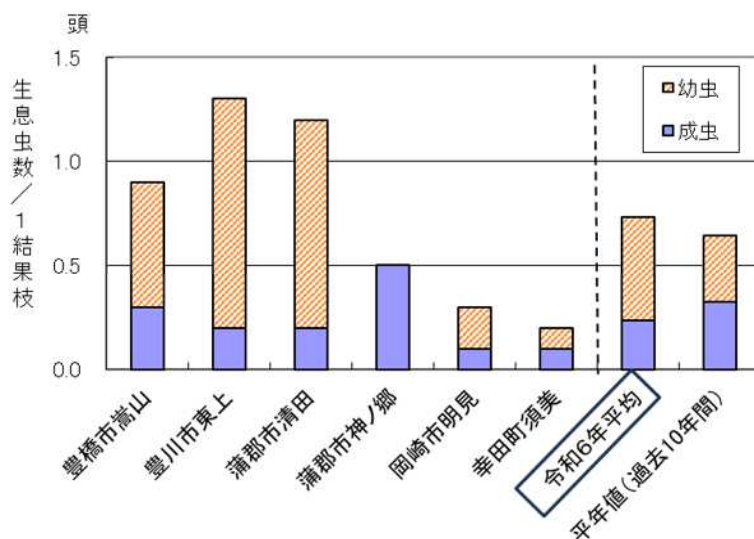


図2 7月下旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシ生息虫数

2 今後の発生予測

- (1) 現在は、越冬世代成虫から新世代成虫への世代交代時期に入っています。ヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシ幼虫の寄生数はやや多く、調査地のヒノキ球果の結実量は平年並からやや多いため、8月以降に発生する新世代成虫の発生量はやや多いと予測します。
- (2) カメムシ類は、ヒノキ球果における口針鞘数（吸汁した痕）が25本になると餌として不適になるため、ヒノキ林から離脱すると言われていています。7月22日、23日に採取したヒノキ球果における口針鞘数から予測した離脱開始時期は、幸田町須美では8月上旬、豊橋市嵩山町で8月中下旬、豊川市東上町、蒲郡市清田町、蒲郡市神ノ郷町で8月下旬、岡崎市明見町で9月上旬中旬です（表1）。
- (3) 中山間部に近い果樹園や例年飛来量が多いほ場では、表1の離脱開始予測時期を参考に、園内の発生状況に十分に注意し、飛来を確認したら防除しましょう（表2）。特に、スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがあるので、注意しましょう。

表1 ヒノキ球果の口針鞘数から予測したカメムシ類のヒノキ林からの離脱開始時期

調査地点	豊橋市 嵩山町	豊川市 東上町	蒲郡市 清田町	蒲郡市 神ノ郷町	岡崎市 明見町	幸田町 須美
1球果当たりの口針鞘数	6.8	6.0	4.2	5.1	1.1	9.7
離脱開始予測時期	8月中下旬	8月下旬	8月下旬	8月下旬	9月上旬中旬	8月上旬中旬

ヒノキ球果採取日：7月22日、23日

表2 カメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	使用回数	IRACコード
かき	キラップフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	2B
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫3日前まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	アグロスリン水和剤	収穫前日まで	3回以内	3A
かんきつ	アクタラ顆粒水溶剤	収穫14日前まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	3回以内	3A
もも	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	2回以内	3A
なし	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫前日まで	5回以内	3A
ぶどう	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。IRACコードの詳細は、https://www.jpca.or.jp/assets/file/lab0/mechanism/mechanism_irac03.pdfを参照する。
薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。